

2025年度（令和7年度）

第1回福山市社会福祉審議会児童福祉専門分科会 議事概要

1. 日時等

日時：2025年（令和7年）5月27日（火）18：30～20：10

場所：福山市役所本庁舎3階 中会議室（Zoomとの併用）

2. 出席者

委員：野口啓示分科会長、池上文夫委員、岡田昭彦副分科会長、小林貞子委員、佐藤裕幸委員、
関知恵子委員、長谷川貴一委員、藤井睦弘委員、前原一教委員、三木智恵委員、
柳澤尚志委員、山川直人委員、吉田耕平委員
（Zoom）齋藤洋委員、谷口裕子委員、橋本敬治委員

事務局：保健福祉局長、ネウボラ推進部長、ネウボラ推進部保育施設担当部長、福祉総務課長、
福祉総務課地域福祉担当課長、障がい福祉課長、障がい福祉課福祉サービス担当課長、
保健予防課長、こども企画課長（兼）ネウボラセンター設置準備担当課長、
ネウボラ推進課長、ネウボラ推進課こども家庭担当課長、保育施設課長、
保育施設課施設管理・児童クラブ担当課長、保育指導課長、まちづくり推進課長、
多様性社会推進課長、若者・くらしの悩み相談課長、学事課長、学びづくり課長、
産業振興課雇用労働担当次長

3. 欠席者

委員：田丸誠委員、中居寛美委員
事務局：健康推進課長

4. 報告について

委員18人中16人の出席により定足数を満たしていることから、本専門分科会が成立していることを報告した。

5. 議事

(1)「福山市ネウボラ事業計画」の実施状況について

事務局から資料1、2による説明後、質疑応答を行った。

(資料1)

質疑・提案（委員）	応答（事務局）
確保方策に合わせて、実際にはその利用者が希望する保育所に入所できているか。	他の保育所等は受入れ可能だが、希望する保育所等に入れないということで、保育所が決定していない児童は81人いる。
希望が通らなかった保護者の希望とはどういった希望なのか。 第1希望のみを書いている理由は何か。 きょうだい別園にならないように、希望の保育所に入所できるようにしてほしい。	統計的に保育施設の保育理念やイベントなどに魅力を感じて第1希望の保育所のみを申込みされる方が多い。自宅から職場までの動線上に受入れ施設があることを説明するが、その選択肢を取られなかったのが未決定の大きな理由である。 きょうだい入所は審査で加点し、対応している。 未決定者の解消に向けて、引き続き取り組んでいきたい。
こどもの出生率が減りつつも、保育ニーズが上がってきていることについてどのように分析しているか。	共働きの世帯が増加傾向にあるということと、2024年度（令和6年度）の9月から第2子以降の保育料無償化の取組を進めてきたことが要因と分析をしている。
公立幼稚園の認定こども園への移行スケジュールについて教えてほしい。	公立幼稚園7園あるうち3園が新たに認定こども園になる（2028年度（令和10年）：2園、2029年度（令和11年）：1園）。 残り4園については、引き続きこの体制を維持していく。

(資料2)

質疑・提案（委員）	応答（事務局）
⑥子育て短期支援事業（ショートステイ） 2024年度（令和6年度）の実績が増えた要因は何か。 2024年度（令和6年度）の実績が266延人だが、2025年度（令和7年度）の事業計画の確保方策が235延人と減るのはなぜか。	養護が必要なこどもが施設入所に至らないようにレスパイトという目的で、保護者の方に勧めたため予定よりは多くなっている。2025年度（令和7年度）の事業計画は、施設の受入れの人数とここ数年の実績を見込んでいる。
①利用者支援事業 相談件数は年々増加しているのか。 どのぐらいの人数の相談員が対応しているのか。 相談内容として多い相談は何か。	2023年度（令和5年度）の実績が約18,000件であり、相談の件数については減っている。第2子以降の保育料の無償化もあり、身近な保育所への相談というところが増えているのではないかと考えている。

	また、現在 26 名の相談員で相談を受けている。 相談内容は、保育所に関することや発達に関する ことが多い。
④妊婦健康診査 福山市こども計画で結婚を希望する若者への支援 を行い、出生数が上昇し、計画期間の確保方を 上回った場合はどう対応するのか。	増加した場合にも、きちんと健診を受けられるよ うに対応する。
⑧一時預かり事業 2025 年度（令和 7 年度）から試行事業で乳児等通 園支援事業が始まり、2026 年度（令和 8 年度）か ら本格実施となるが、一時預かり事業等を含めた 量の見込みはどうか。	福山市こども計画の 115 ページから 117 ページに、 乳児等通園支援制度と一時預かり事業の今後の量 の見込みと確保方を掲載している。

（２）ネウボラセンターの概要について

事務局から資料 3 による説明後、質疑応答を行った。

質疑・提案（委員）	応答（事務局）
今後、民生委員が連絡する先はネウボラセンター になるのか。 こどもを取り巻く課題は、その親や世帯に課題も ある場合があるが、他の関係部署と連携して課題 の解決に取り組んでもらえるのか。	体制や組織の部分はこれから検討になる。 ネウボラセンターを整備した後も、課題に応じて 多岐にわたる関係部署との連携をこれまで以上に 円滑にしていきたいと考えている。
不登校やひきこもりについて、学校としっかり連 携をして、保護者の対応や他の機会につなぐ方法 などをしっかり行っていただきたい。	学校との連携も強化をしていきながら、こどもに 寄り添うといったような仕組みや環境というもの をさらに充実をさせていきたい。
こどもの意見をしっかり取り入れてほしい。 こどもが使う施設について、運営について、こど もの参画をしていただきたい。	こどもの意見は、すごく大切にしないといけない と感じており、例えば、屋内遊戯場に遊具を整備 する際には、こどもがどういった遊びをしたいの かといったような意見も取り、整備運営に反映を していきたい。
駅前再開発の多目的広場も含めて、一体的に何か 運用できるような施策を検討していただきたい。	他部署と情報共有しながら、若者の居場所といっ たような観点を外さずに、またそれが駅前そして 福山市のにぎわいにつながるように、そういった 視点を持って、取り組んでいきたい。
こどもとか若者とか、大人の定義について教えて ほしい。 ネウボラセンターの対象が広くてイメージがしに くいので、コンセプトを持って、イメージしやす いようにしてほしい。	福山市こども計画と同様に、概ね 30 歳未満までを 対象としている。 大人については、子育て家庭や課題を抱える世帯 などが対象となる。

参考にした施設や取組について教えてほしい。 ユースセンターについても参考にしてみようか。 こどもたちの遊び場を検討する際、インクルーシブについても検討していただきたい。	伊勢市や茨木市の遊び場、岐阜市の相談体制について視察に行った。 インクルーシブについては、大学の先生や協会の方にアドバイスをもらい、引き続き研究していきたい。
人員の配置についてと、中心部以外にも同じような施設をつくる予定があるか教えてほしい。 専任とは言わないが、1人のスタッフが、1人の相談者をある程度長いスパンで見ているような体制を検討してほしい。	8月のオープンに向けて、約10名の人員確保に向けて動いている。中心部以外の地域のネウボラセンターの整備については、現時点で構想はない。 体制の詳細については、組織や人員のことがあるので、今後検討していく。

(3) その他

事務局から今後のスケジュールについて説明を行った。